

# 令和4年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立笠田高等学校 校長名：野川 景子

## 目指す学校像

- ・生徒にとって、一人一人が大切にされ、安全安心に学ぶことができる学校
- ・教職員にとって、創意工夫が活かされ、働きがいのある学校
- ・保護者や地域にとって、ともに頑張ろうと思える学校

## 育てたい生徒像

- ・心身ともに健康で、目標に向かって粘り強く挑戦できる生徒
- ・幅広い知識・技能を身につけ、自ら考え、他者と協働できる生徒
- ・地域に愛着を持ち、主体的に地域の課題解決に取り組める生徒

## 学校評価の公表方法

- ・本校ホームページに掲載する。
- ・学校運営協議会に提出する。

## 現状・進捗度

|   |            |         |
|---|------------|---------|
| A | 十分に達成している。 | (80%以上) |
| B | 概ね達成している。  | (60%以上) |
| C | あまり十分でない。  | (40%以上) |
| D | 不十分である。    | (40%未満) |

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

| 番号 | 計画・取組                   |    |   | 評価（3月31日現在）   |     |  |  |
|----|-------------------------|----|---|---|-----|--|--|
|    | 重点目標                    | 現状 | 具体的取組                                       | 評価項目と評価指標   | 進捗度 | 進捗状況   | 今後の改善方策  |
| 1  | 主体的な学習と進路選択の実現          | C  | ・「分かる授業」「できる授業」の実践【特別支援教育とユニバーサルデザインの視点の導入】 | ICT活用、対面授業、個別の学び、協働的な学び等が効果的に実施できたか。【生徒の授業評価、研究授業の実施回数】 | C   | 学習指導支援員派遣事業の活用、校内研修等を通して、特別支援教育に係る専門性の向上を図った。分かりやすく学びやすい授業の実施については課題が残る。 | ・全教員による公開授業や研究授業の実施や校内外での研修の充実<br>・新学習指導要領の着実な実施とふりかえり<br>・特別支援教育及びSSWIに係る校内研修の実施と丁寧な生徒観察及び情報共有<br>・全教員による生活指導及び丁寧な声かけ |
|    |                         |    | ・授業規律の保持【チャイム着席・私語・スマホの指導】                  | 規律ある授業が実施できているか。【生徒及び教員の授業評価】                           | B   | 教員の共通理解のもと、生徒が落ち着いて学習できる環境が整っている。  | ・事業所や卒業生等と連携した職業教育<br>・学校設定科目「ステップアップ」の効果的な実施と「スタディサプリ」の積極的な活用   |
|    |                         |    | ・キャリア教育の充実【自己理解・目的意識の育成】                    | 多様な入試制度の活用、応募前職場見学の実施、進学補習やガイダンス等の実施【大学進学状況・就職内定率】      | B   | 進学補習を開講し、学び合う集団づくりを推進している。主体的な進路選択に向けた取組を計画・実施している。                      |  |
| 2  | 個々のニーズに対応した生徒支援・生徒指導の充実 | B  | ・個々の生徒の適切なアセスメントと情報共有・共通理解                  | 情報共有やアセスメントは迅速で的確であったか【アセスメントシート、つなぎ愛シート作成】             | B   | 多様な課題を抱えた生徒や家庭の支援について組織的・継続的に対応できている。つなぎ愛シートの活用は十分ではない。                  | ・学年団と人権教育部の協働によるつなぎ愛シートの引継ぎと活用の充実<br>・生徒の情報共有や情報交換の場の設定  |
|    |                         |    | ・面談、アンケート等の有効活用                             | 面談・三者懇談が効果的に実施できたか。【不登校・休学・転学・退学者の減少】                   | B   | 面談週間や三者懇談だけでなく、常に生徒に寄り添った観察と対話を重視し、休学・転学・退学者数が減少した。                      | ・面談やアンケート等の効果的な実施と活用<br>・課題への迅速で適切なチーム対応<br>・SC・SSW等、専門的な人材の活用と関係機関との緊密な連携   |
|    |                         |    | ・家庭や関係機関との円滑な連携                             | 組織的・継続的に生徒及び家庭の支援ができたか。【ケース会議、学年会議等の回数】                 | A   | 校内支援体制が機能し、生徒が抱える課題にチーム学校として対応できている。                                     | ・教員間の相談体制の構築   |
| 3  | 安全安心な学校づくり              | B  | ・新型コロナウイルスの感染症対応                            | 健康観察・手指消毒・換気が徹底できたか。【学校評価アンケート】                         | A   | 組織的・継続的に感染拡大防止に努め、安全・安心な居場所の役割を果たした。                                     | ・感染症対策の徹底<br>・健康観察のICT化  |
|    |                         |    | ・部活動、学校行事、特別活動の安全な実施                        | 制約がある中で生徒は主体的に活動できたか。【学校評価アンケート】                        | A   | 生徒の主体性や協調性が育ち、特色と魅力ある学校づくりにつながっている。                                      | ・文化祭・体育祭・球技大会等、生徒主体の学校行事の実施<br>・部活動の活性化と部活動数の適正化   |
|    |                         |    | ・防災減災教育の推進                                  | 各避難訓練・防災スクール等が効果的に実施できたか。【学校評価アンケート】                    | B   | コロナ対策をしながら安全に実施したが、地域との連携・協働が今後の課題である。                                   | ・地域と連携・協働した避難訓練・防災スクール等の実施   |
| 4  | 地域との連携・協働               | C  | ・かつらぎ町、地域の小学校、事業所等との連携の推進                   | 地域との連携・協働の場が設定できたか。【地域連携活動の状況】                          | A   | 商業科の取組・部活動及び生徒会活動により、地域との連携・協働を推進できた。                                    | ・商業科課題研究の内容精選<br>・部活動及び生徒会活動の充実  |
|    |                         |    | ・自己有用感・自己肯定感の醸成                             | LHRや学校行事、学校外学修が充実していたか。【各種アンケート】                        | B   | ボランティア単位認定、学校行事の充実等、生徒の主体的な活動を引き出した。                                     | ・総合的な探究の学習の内容精選<br>・ボランティア活動の精選と推奨<br>・生徒主体のLHRの実施   |
|    |                         |    | ・学校運営協議会の活性化                                | 学校の課題解決に向けて効果的に実施できたか。【学校評価アンケート】                       | B   | 学校運営協議会を3回開催し、学校や地域が抱える課題について熟議できた。                                      | ・学校運営協議会や地域学校協働活動との連携強化、地域学校間連携の推進   |

## 学校関係者評価（1月～2月実施）

- 【教職員】ほぼ全ての項目において、高い評価が得られた。
- (1)教育目標、重点目標  
自校の課題の認識、特色・魅力ある学校づくりの推進においては 教職員の共通理解の下、学校運営ができています。
- (2)教職員の姿勢・意識(4)教科指導・教務(6)生徒指導  
教員間での意識に幅がある。生徒支援・生徒指導において、共通理解の下、「チーム学校」として対応したい。  
教員の多忙化が進み、時間に余裕がない中、朝の打合せ時のアプリ「White-board」の導入は大変効果的であった。  
組織的・継続的に働き方改革の推進、業務の平準化・適正化に向けて取り組みたい。
- 【生徒】アンケート実施方法の改善が必要である。forms等の活用を進める。
- (1)学校生活全般  
やや満足度が低くなっている。コロナ対策により、学校生活全般にわたって制約があり、閉塞感を感じている生徒が多い。また、各学科の取組や部活動等の広報に課題がある。
- (2)学習  
分かりやすく充実した授業についての評価が低い。授業改善に取り組み、分かりやすく学びやすい授業づくりを推進する。
- (3)自校への誇り  
不本意入学が少ないため、愛校心を持っている生徒が大多数である。生徒の思いや期待にしっかりと耳を傾けたい。
- 【保護者】
- (1)学校生活全般  
コロナ対策により、保護者の方に来校していただく機会がほとんどなく、教育活動への理解が低く、「わからない」との回答が見られた。感染状況を見ながら、来校していただく機会を設定したい。
- (2)生徒指導  
基本的な生活習慣や規範意識の醸成については課題がある。保護者と連携しながら粘り強く取り組んでいきたい。
- (3)本校への期待  
本校に入学させてよかったと思っていただけている方が大多数である。保護者の思いや期待を真摯に受け止め、学校運営に活かしていきたい。
- 【地域住民等】  
教育活動についての広報が不足している。地域と連携できる取組を工夫したい。本校生徒への期待が高い。コロナ感染状況を見ながら、防災や地域イベント等での連携を推進していきたい。